

第1号議案

2019年度のまとめと2020年度のすすめかた

《2020年度スローガン》

事業と活動を通じた社会貢献をひろげ、 “誰一人取り残さない社会”の実現をめざします

はじめに

私たちは、2019年度も法人理念「その人らしく、気持ちよく生きる」のもと、“個人の尊厳”と“生活の質の向上”を大切にサービス提供とまちづくりをひろげてきました。

2019年4月には新たな介護サービスである看護小規模多機能^①を2事業所開設し、9月には姫路市以外では初めてとなる太子町における介護事業の展開をすすめました。また、全介護事業所への情報通信技術（ICT）の導入やSDGs（エスディージーズ：持続可能な開発目標）をテーマにした介護・医療フォーラムの開催など、新たな取り組みをひろげました。2020年度は、これらの成果も生かし、事業と活動をさらに発展させます。

2015年9月、ニューヨークの国連総会で合意されたSDGs-17の目標は、21世紀の世界が抱える社会問題、環境問題を包括的に掲げ、2030年までに解決をめざしています。姫路医療生協はSDGs-17の目標を学び、持続可能な社会の実現に向け、具体的な取り組みをすすめます。

今、新型コロナウイルス感染症は世界に拡散し、日本でも広がっています。WHO（世界保健機関）は2020年3月11日にパンデミック（世界的な大流行）を宣言し、政府は4月7日に緊急事態宣言を発令しました。当生協として、2月27日に新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、対応をすすめています。協同の力で新型コロナウイルス感染症を乗り越えていきましょう。

《SDGs-17の目標》



SDGsバッジ

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ① 貧困をなくそう | ⑩ 人や国の不平等をなくそう |
| ② 飢餓をゼロに | ⑪ 住み続けられるまちづくりを |
| ③ すべての人に健康と福祉を | ⑫ つくる責任、つかう責任 |
| ④ 質の高い教育をみんなに | ⑬ 気候変動に具体的な対策を |
| ⑤ ジェンダー平等を実現しよう | ⑭ 海の豊かさを守ろう |
| ⑥ 安全な水とトイレを世界中に | ⑮ 陸の豊かさを守ろう |
| ⑦ エネルギーをみんなに、そしてクリーンに | ⑯ 平和と公平をすべての人に |
| ⑧ 働きがいも、経済成長も | ⑰ パートナリシップで目標を達成しよう |
| ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう | |

1) 2019年度のまとめ

1. 地域包括ケア^②の推進、介護と医療の一体化したサービスの提供

①新規事業の展開や再編をはかり、利用者増をはかりました

○2019年4月 看護小規模多機能すずかぜ、看護小規模多機能てがら開設（小規模多機能からの転換型）

地域サービスセンター開設

7月 ヘルパーステーション香寺をヘルパーステーション花北に、ヘルパーステーションてがらをヘルパーステーションひがしに統合

居宅介護支援事業所しかまを福祉介護センターてがらに移転（名称も居宅介護支援事業所てがらに変更）

9月 福祉介護センター太子（訪問看護ステーション太子、居宅介護支援事業所太子）開設

ヘルパーステーションなだをヘルパーステーション別所に統合

福祉用具レンタル別所を福祉介護センターなだに移転（名称も福祉用具レンタルなだに変更）

○共立病院の地域の中で果たす役割の確認と実践で、“新しい病院づくり”の条件整備をすすめました。

○看護小規模多機能太子の開設申請は、見送りました。太子町における利用者増が課題です。

②在宅生活の限界点を高め「最期まで安心して家で暮らし続けたい」のニーズにお応えしました

○法人「地域ケア会議^③」を定期開催し、国際生活機能分類（ICF）^④を実践的に深めました。全職員が利用者の意思決定を大切にするアドバンス・ケア・プランニング（ACP）^⑤を学びました。

○11月に地域包括ケア研究会座長の田中滋氏をお招きし開催した「地域包括ケアセミナー」に173名が参加しました。うち行政（7名）を含め、外部から50名の参加がありました。

○11月に清元秀泰姫路市長と「地域密着型サービス」をテーマに懇談しました。

③経営活動は3つの柱（利用者増・コンプライアンス・質の向上）ですすめました

○2019年度決算は、事業収益50億1,317万円（予算比97.7%、前年比103.8%）、経常利益



姫路市長との懇談（右から3人目が清元市長）

6,528万円（経常利益率1.3%、予算比43.8%、前年比123.3%）の到達となりました。

- ヘルパーステーションの再編、定巡利用者確保プロジェクト等の取り組みで定期巡回・随時対応サービス^⑥、ヘルパーステーションの経営改善をはかりました。共立病院は地域包括ケア病床の機能強化をはかり、入院収益は前年比で約4,300万円の増収となりました。
- 2019年4月に生協本部に事業連携室の設置、介護事業部にコンプライアンス担当課長の配置をおこないました。事業連携やコンプライアンス活動の強化につなげました。
- 2018年秋から2019年夏にかけて、すべての介護事業所に情報通信技術（ICT）を導入しました。2020年2月に総務部にIT（情報技術）システム課担当主任を配置しました。情報通信技術（ICT）を活用したテレビ会議も実施されています。

2. 「楽しく、おいしく、オシャレ」な地域活動と地域共生社会づくり

①誰もが参加できる「くらしの安心ネットワーク」をひろげました

- 各ブロック・支部で多彩な地域活動が展開され、地域のつながりがひろがりました。居場所づくり、フレイル予防を重視して取り組みました。
- 秋の生協強化月間スタート企画では、みらいクリニック院長の今井一彰氏を講師に迎え、「あいうべ体操」「ゆびのば体操」を学びました。
- ひょうごまるごと健康チャレンジは約1,000名が参加しました。



みんなの食堂（高砂支部）

- 事業利用委員会は、「キラリハート^⑦」の取り組みを重視するとともに、認知症カフェや介護者家族会、子ども食堂（高砂支部では「みんなの食堂」がスタート）等の居場所づくりがひろがりました。
- 仲間ふやしは555名（純増-875名）、出資金ふやしは4,834万円（純増-4,147万円）の到達です。介護事業所全体の組合員利用率は生協強化月間を通じて37%→39%に2%増加しました。
- 地域活動の“担い手づくり”は今後の課題です。

②くらし・平和を守る活動をすすめました

- 原水爆禁止世界大会in長崎には、法人から2名代表派遣し、報告会を開催しました。
- 姫路駅前の署名行動は、「原発なくせ」や「ヒバクシャ国際署名」のテーマを決め、定期的に実施しました。
- 西播社会保障推進協議会の自治体キャラバンに法人として参画しました。

3. “地域包括ケアを担う人づくり”

①職員育成4つの視点の具体化・実践、創意工夫を凝らした人材確保・育成をすすめました

○2019年度も職員研修、管理者研修、リーダー育成研修、新任管理者研修、新入職員研修、通信教育学習会等、計画的に推進しました。

○全職員を対象にした集合研修は、管理者2回、職員16回に分け、「法人45年の歴史と今後の展望」「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」「安全運転」をテーマに開催しました。全体の参加率は約90%です。

○管理者（職責者）育成を目的にした2019年度リーダー育成研修は、25名が参加しました。

○医師確保の課題は、2019年12月末にあぼし診療所所長の退職がありましたが、あぼし診療所には2020年1月に、共立病院と共立歯科には2020年4月に各1名の常勤医師が着任されました。引き続き、医師確保を最重点課題と位置づけ推進します。

○新卒介護職員は2020年4月に6名採用しました。法人として、（介護職員）人材育成システムの確立が喫緊の課題となっています。



ぐらしの助け合いの会「はなちゃん」総会

②組合員と職員がともに学び、協同をひろげました

○第21回介護・医療フォーラムはSDGsをテーマに開催しました。181名の組合員・職員が参加しSDGsを学び、同時にコープこうべの協力のもと、当生協初のフードドライブ®を実施しました。ニュース「ひめじ」新年号紙上で、SDGsをテーマにした新春座談会をおこないました。

○イチ押し班会メニューが積極的に活用されました。

○通信教育は、組合員4名、職員115名が受講しました。

○秋に法人パンフレットをリニューアルしました。

2) 2020年度のすすめかた

1. 地域包括ケアを推進し、“最期まで安心の在宅サービス”を提供します

①新規事業を検討し、利用者増をはかります

○共立病院のポジショニング
「在宅療養支援病院」「地域包括ケア病院」「リハビリ」機能強化をはかり、共立病院の建て替えに向けた具体化を推進します。

○環境変化、地域ニーズを見据え、次の事業展開を総合的に検討し、推進します。



利用者家族会（グループホームめが）

②地域包括ケアを推進し、国際生活機能分類（ICF）、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の考え方を生かします

○在宅医療と“治し、支える医療”の実践を重視します。介護と医療の一体化を推進します。包括報酬型サービスをさらに発展させます。

○「認知症」「1人暮らし」「中重度」「医療的ケア」「尊厳ある在宅看取り」を支える機能の強化をはかり、在宅生活の限界点を高めます。

○法人「地域ケア会議」を定期開催し、自立支援、多職種協働を推進します。

○行政や他団体との“顔の見える関係づくり”をさらに強化します。

③経営活動は3つの柱（利用者増・コンプライアンス・質の向上）ですすめます

○2020年度の事業収益は51億5,545万円（前年比102.8%）、経常利益は1億5,205万円（経常利益率2.9%）を実現します。

○営業活動と広報活動を強化し、利用者増をはかります。広報活動はニュースひめじの充実、ホームページやソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の活用を重視します。

○介護事業所の情報通信技術（ICT）をフル活用し、業務の効率化、サービスの質の向上につなげます。人工知能や介護ロボットの積極的な導入を検討します。

○内部統制システム^⑨の強化をはかります。

2. 多様性を認め合い、誰もが参加できる“くらしの安心ネットワーク”をひろげます

①健康づくり、助け合い活動をひろげます

- （まちかど）健康チェック、健康診断をひろげます。ひょうごまるごと健康チャレンジは1,200名に普及します。
- フレイル予防・オーラルフレイル⑩予防⑩を重視します。
- 医療福祉生協の“すこしお”⑪マークを活用し、減塩運動に取り組みます。
- “認知症になっても大丈夫なまちづくり（認知症への備えと共生）”“災害に強いまちづくり”を推進します。
- 支部の世話人づくりとともに、地域で生活を支える「くらしの支えあいの会はなちゃん」の支援会員や事業所ボランティアを増やします。



塩と上手におつきあい

すこしお

②地域における多世代の“居場所づくり”をひろげます

- “楽しく、おいしく、オシャレ”な地域活動をひろげ、地域の「困った」を居場所（認知症カフェ、サロン、子ども食堂、介護者家族会、男性介護者の会、子育てサークルなど）につなげる活動を推進します。“出番づくり”と“ゆるやかなつながりづくり”をひろげます。多世代が参加する地域共生社会の実現をめざします。
- SDGsの班会メニューを作成し、活用します。ジェンダー平等、環境危機について考えます。コープこうべ、フードバンクはりまと連携して、フードドライブに取り組みます。
- 事業利用委員会は、「キラリハート」の取り組み、事業所と組合員（地域）の連携強化を重視します。
- 仲間ふやし1,000名、出資金ふやし3,000万円（純増1,500万円）、支部運営委員10名をめざします。全事業所が組合員利用率50%以上を実現し、組合員利用率のアップに取り組みます。



元旦ウォーキング（あぼしブロック）

③くらしと平和を守る活動をすすめます

- 憲法・平和・人権を守る活動を推進します。
- 原発ゼロの実現、再生可能エネルギーへの転換をめざします。
- 2020年4月開催のNPT（核不拡散条約）再検討会議&原水爆禁止世界大会inニューヨークは、当生協から2名の代表派遣をおこないます（新型コロナウイルス感染症の影響で中



2019年度 原水爆禁止世界大会in長崎

止)。

○西播社会保障推進協議会の自治体キャラバンに積極的に参画します。

3. “地域包括ケアを担う人づくり”をすすめます

①人材育成システムの確立をはかります

○（介護職員）キャリアアップ育成システムを確立し、各事業所で職場内研修（OJT）を通じた人材育成を推進します。

○“個人の成長”と“やりがい”を実感できる職場づくりを推進します。

○ハラスメント（セクハラ、パワハラ、マタハラ）のない職場づくりを実現します。

○職員の離職防止、定着率アップをはかります。

②人材の確保・育成、管理者・リーダーの育成を推進します

○医師確保は最重点課題と位置づけ、あらゆるつながりを生かして推進します。2021年度新卒介護職員採用は5名を目標に取り組みます。

○管理者・リーダー育成研修は、キャリアアップ育成システムに沿った研修を具体化します。

○全事業所・職員がマネジメントの基本であるPDCAサイクル（計画→実行→評価→改善）の運用を重視します。

③「職員育成4つの視点」にもとづく教育活動を推進します

○職員育成4つの視点ー（1）地域包括ケアと国際生活機能分類（ICF）、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を学び実践できる、（2）多職種協働ができる、（3）利用者増に活かせるマネジメントができる、（4）主体的に地域活動に参加できる人づくりをすすめます。

○イチ押し班会メニューを充実させ、活用をひろげます。

○医療福祉生協連、全日本民医連の月刊誌「comcom（コムコム）」「いつでも元気」を組合員・職員に普及し、事業と活動に活かします。

○通信教育の活用をはかります。

《語句の解説》

① 看護小規模多機能

訪問看護に社会参加の“通い”と家族のレスパイト（休息）のための“泊まり”サービス等を組み合わせた地域密着型の在宅サービス。中重度者の医療的ケアや在宅看取りニーズに積極的にお応えします

② 地域包括ケア

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくり。医療、介護、生活支援・介護予防、住まいの切れ目のない一体的なサービスの提供をすすめます

③ 地域ケア会議

多職種の医療・介護専門職や地域住民等が参加して、事例を通して地域課題を明確にし、新たな社会資源の開発につなげる会議

④ 国際生活機能分類（ICF）

障害だけでなく、その人の生活機能－「心身機能」「活動」「参加」を見ることを重視した考え方

⑤ アドバンス・ケア・プランニング（ACP）

人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族や大切な人、医療・ケアチームと繰り返し話し合い、本人の意思決定を尊重する取り組み

⑥ 定期巡回・随時対応サービス

訪問介護と訪問看護、随時対応を組み合わせた24時間つながる安心サービス

⑦ キラリハート

利用者様に喜ばれたイチ押し事例を各事業所がまとめ、組合員・職員の確信にし、ひろげる取り組み

⑧ フードドライブ

食品ロスをなくすために、不要となった食品を必要な人に届ける取り組み

⑨ 内部統制システム

業務全般の適正さが確保できる仕組みをつくり、その仕組みに基づいて運営すること

⑩ オーラルフレイル予防

口腔機能の低下を予防する取り組み。健康寿命の延伸に大きく寄与します

⑪ すこしお

“少しの塩分で、すこやかな生活”をめざす取り組み

2020年度 各部門・事業所の理念と重点課題

《姫路医療生協の理念》

その人らしく、気持ちよく生きる

共立病院

《理 念》 利用者が満足できるより良いサービスを提供し、地域から信頼される病院をつくります

《重点課題》

- 現代の水準に見合ったサービスを地域住民へ提供するため、早期の病院建て替えを今後の最重点課題として位置付けます。
- 地域住民の在宅生活を支える病院として地域包括ケア病床の機能を医療活動の中心に位置づけます。
- 職業人としてあるべきふるまいを常に心がけ、すべての関係者が満足できるような職員の接遇対応を実現します。
- 地域の医療機関や介護事業所との連携をさらに向上させます。

ヘルスコープあぼし診療所

《理 念》 安心・安全の介護・医療連携で、利用者様へ満足度の高いサービスを提供します
《重点課題》

- 患者様の思いに沿い、住み慣れた地域で、医療・介護が連携したサービスを提供します。
- 訪問診療を積極的に推進します。在宅医療管理件数は100件（うち太子地域1割）を目標とします。
- アドバンス・ケア・プランニングを重視し、終末期に対応します。
- かかりつけ医機能を強化します。
- 常勤医師を新たに1名以上採用します。
- SDGsにかかわる「フードドライブ」の受付事業所の役割を果たします。

共立歯科

《理 念》 口はいのちの入り口 健康の入り口
～生涯口から食べる楽しみをサポートします～

《重点課題》

- 地域包括ケアシステムにおける歯科の役割を果たし、在宅歯科診療をひろげます。
- 地域の医療機関や介護事業所との連携を深め、口腔ケアの技術向上に努めます。
- 安心安全な治療を提供し安定した経営を行います。
- すべての分野で選ばれる歯科を目指し接遇の向上に努めます。
- 人材育成に取り組み、働きやすい職場づくりに努めます。

居宅介護支援事業所

《理 念》ふれ愛 ささえ愛 みとめ愛 とともに生きる

《重点課題》

- 姫路市及び近隣市町村の医療機関との顔の見える関係づくりを継続することで、利用者確保に努めます。
- ICTを活用し業務の効率化を図り、ケアマネジメントの質の向上を図ると共に、働きやすい環境を整え、人材確保・人材育成を実現します。
- SDGs-17の目標を学び理解し、すべての人に「健康と福祉」「住み続けられるまちづくり」の実現に向け、取り組んでいきます。

姫路市増位・広嶺地域包括支援センター

《理 念》地域で共に支え合い、共に生きる

《重点課題》

- 地域住民の健康の保持及び生活の安定のために必要な相談・援助を円滑に行います。
- 多世代でつながり、相互に役割を持ち、支える『地域づくり』に取り組みます。
- 多面的支援の充実と地域住民による支え合い、地域資源、公的支援をコーディネートし、切れ目のない支援を実現できるような『地域づくり』に取り組みます。
- 地域で楽しみや生きがいを見出せるような『地域づくり』に取り組みます。

相談支援事業所てがら

《理 念》ともに寄り添い、一人ひとりの自立を支えます

《重点課題》

- 必要な社会資源を活用し、多職種との連携を図り、社会での生きづらさの軽減が図れるようサービスを提供します。
- 共生社会を意識して活動できる人材の獲得や、サービスの質の向上を目指します。
- 生協活動を理解し、参加できる活動の提案をすすめます。

訪問看護ステーション

《理 念》住み慣れた地域でその人らしく最期まですごせるように、安心・安全・こころあたたまる看護を提供します

《重点課題》

- 医療依存度の高い方の受け皿とした看護小規模多機能型居宅介護事業所を多くの利用者様が利用できるように運営します。
- 定期巡回・随時対応サービス、小規模多機能との連携に努め、共に健全で安定した経営を行います。
- 在宅看取り体制を強化するにあたり、利用者本人の意思決定を基本に多職種連携を図ります。(アドバンス・ケア・プランニング)
- 地域包括ケアを担う人づくりをすすめ、小児から高齢者まであらゆる疾病のご利用者様の

ニーズに応じた訪問看護、リハビリテーションを充実し、介護予防・社会参加の推進に努めます。

○暮らしの平和・人権を守る活動を通じ、地域との交流を図り、選ばれるステーションをめざします。

○ICTの利活用により、柔軟な働きがしやすい環境づくりを強化します。

看護小規模多機能

《理念》住み慣れた地域でその人らしく過ごすことができるよう医療と介護の両面をサポートします

《重点課題》

○利用者様自らが選択した場所で、安心して暮らしつづけられるよう多種多様な支援体制と安定した運営を図ります。

○日々進歩する確実に専門性の高い看護と介護の実践と、育成に向けた取り組みを行います。

○近隣の医療機関と連携し、地域住民と交流を図り、活動の場をひろげます。

定期巡回・随時対応サービス

《理念》「いつでもつながる安心」を提供し、その人らしい生活をささえます

《重点課題》

○定期巡回・随時対応サービスを更に多くの人に知っていただくために、広報活動を継続しつつ、実践の場で医療と介護の一体化を進め、最期まで在宅で安心して生活できる利用者様を増やします。

○利用者様の意向や生活状況を十分に把握した上で、多職種で協働し、その人らしい暮らしの継続をめざします。

○事業所内の業務分担を推し進め、職場の労働環境を整備します。そして、コンプライアンスの徹底の下、ICT（情報通信技術）を活用し、関係者間の情報共有を進め、利用者様に更に良いサービスが提供できるよう、サービスの質の向上をめざします。

ヘルパーステーション

《理念》笑顔ある暮らしに寄り添います

《重点課題》

○ICF（国際生活機能分類）の学びを深め、重度化を防ぎ自立した在宅生活が継続できる利用者様を増やします。

○コンプライアンスの徹底を基盤とし、事業経営活動を発展させます。

○ICT（情報通信技術）を更に使いこなせるように研鑽を重ねて多職種間の情報共有を進めるとともに、OJT（職場において実務を通じて業務を教える方法）を通じた人材育成を進め、職員が成長や働きがいを実感できる職場づくりを推進します。

リハビリテーション

《理 念》 全ての人にリハビリを提供します

《重点課題》

- 病院を入退院する際のリハビリ情報の具体化を図り、情報の提供と共有で病院と在宅をつなげ、介護と医療の一体化を実践します。
- 法人内事業所の利用者様、ご家族様、職員の困りごとに対応できる体制をつくり、全ての人にリハビリを提供します。
- 生活機能向上連携加算の算定を促し、各介護事業所との多職種協働を進めます。

通所リハビリ（デイケア）

《理 念》 一人ひとりを大切に その人らしさをサポートします

《重点課題》

- 新規利用者様の獲得を図り、安定した経営を目指します。
- 通所と訪問の強みを活かして、在宅生活の限界点を高め、利用者様の満足度アップを図ります。
- 生活機能向上連携加算に協力し連携を深め、地域包括ケアを推進します。

デイサービス

《理 念》 人が出会い「笑い」が生まれる

《重点課題》

- 出会いと集いの場を提供し、安心して在宅生活が続けられるよう支援いたします。
- ICTの活用により、利用者の情報共有とサービスの質の向上に努めます。
- 適切な加算算定で、安定した事業経営を行っていきます。

小規模多機能ホーム

《理 念》 一人ひとりに寄り添う 地域に寄り添う

《重点課題》

- 利用者の尊厳を守り、地域の生活者として支えます。
- 健全な安定した事業所運営を行います。
- 人材育成に取り組み、プライドを持って活躍できる職場づくりに努めます。
- 地域コミュニティとして活動の場を広げます。

ショートステイつどい

《理 念》 人がつどい『笑顔』が生まれる

《重点課題》

- 「介護過程を理解し考えるケア」が実践できる人づくり
- 事業費用を削減と利用者確保で「黒字」を目指します
- ハラスメントのない「働きやすい職場」を作ります

グループホームめぐ

《理念》思いやりの心で、ひとりひとりの「生きる」を支えます

《重点課題》

- 利用者の尊厳が守られた認知症ケアを実践します。
- 地域とつながりを持ち、生活ができるよう支援します。
- 人材育成、環境整備に努め、選ばれる事業所をめざします。

福祉用具レンタル

《理念》個性ある住みよい暮らしの演出をお手伝いします

《重点課題》

- 生活環境を整え、安心して過ごしていただけるようニーズに応じた福祉用具の提案をします。
- 積極的に学習会・研修会に参加し、知識や技術を身につけ、サービスの質の向上に努めます。
- 地域包括ケアに貢献できるレンタル事業所を目指します。

訪問入浴サービス共立

《理念》安心・快適をモットーに体と心温まる訪問入浴サービスをお届けします

《重点課題》

- 利用者のニーズを受け止め、その人らしく寄り添った訪問入浴をお届けします。
- 多死社会における「尊厳ある在宅看取り」に貢献します。
- 効率的で効果的な質の高い職場運営を行い、黒字経営を目指します。

生協本部

《理念》一人ひとりに、正確・迅速・思いやりのあるサービスを提供します

《重点課題》

- 人材を確保・育成し、事業の発展に貢献します。
- 職員の離職防止、定着率アップをはかり、“安心して働ける事業所づくり”に貢献します。
- 介護職員キャリアアップ育成システムの確立を推進します。
- 健康づくり、認知症見守りサポート、助け合い、つながりを重視した地域活動をひろげ、安心して暮らせる地域づくりに貢献します。
- ICT（情報通信技術）を活用し、法人の情報共有・発信・連携を強化します。